

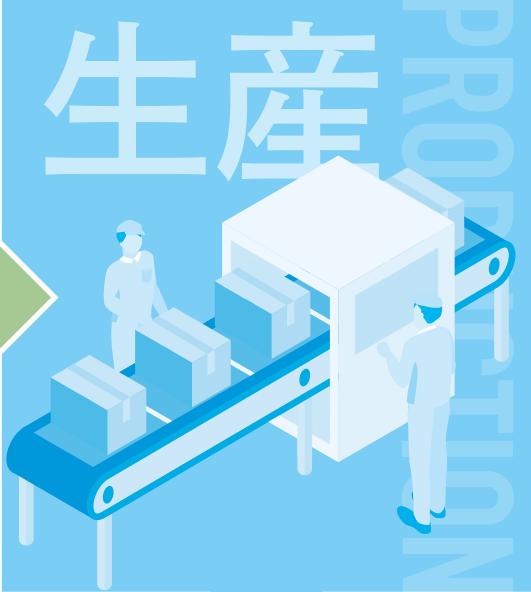
RESEARCH AND
DEVELOPMENT



研究・開発



調達



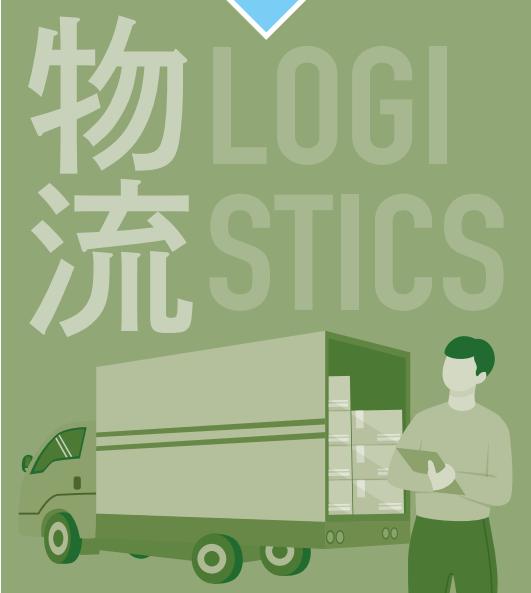
生産

すべての人を笑顔にしたい

ShinSei

SUSTAINABILITY REPORT 2025

真誠グループ サステナビリティ レポート



物流



お客様



販売



人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

真誠グループは、「健康文化を世界に広げ社会に貢献する」のミッションを掲げ、
その信念を社員一人ひとりが持ち、人も、地球も、健康に生き続けられる社会を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

コーポレートメッセージ すべての人を笑顔にしたい

真友の理想とする理念は「真心と誠実を貫き通す」ことにある。
人間を幸せにする健康を商品に託し、販売を通じて、健康文化を世界に広げていきたい。
そして、人々の健康を心から願い、その事自体に喜びを見出し、その達成に情熱を持ち続けよう。

トップメッセージ

TOP MESSAGE

真誠グループは創業以来、真心と誠実を理念の根幹とし、コーポレートメッセージ『すべての人を笑顔にしたい』を存在意義として歩んでまいりました。人々の健康を心から願い、食を通じて社会に貢献することを目指しています。2025年度も真誠グループSDGs宣言で定めた重要課題（マテリアリティ）にある「環境」「社会」「経済」への取り組みを、サステナビリティ活動の中心に据え着実に推進しております。

社会への取り組みとして、未来を担う子どもたちを支援するための食育活動を一層強化しています。2025年から名古屋グランパス様とパートナー契約を締結し、同クラブの管理栄養士による講演を通じて、子どもたちの心身の成長を支援しています。環境への取り組みとしては、生産過程における原料ロス削減や歩留まりの向上などにより食品

廃棄物の発生を抑え食品ロスの削減に努めています。また、脱炭素社会の実現に向け温室効果ガス排出量を算定する体制も整えております。

私たちは、ごまの持つ可能性を追求し健康価値の向上と新たな価値創造を両立させながら、ステークホルダーの皆さまと共に豊かな未来の実現を目指してまいります。本レポートでは、2025年度の取り組みをご報告しております。ぜひ内容をご覧いただき、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 富田 博之



重要課題（マテリアリティ）

MATERIALITY

環境への取り組み

● 食品ロス削減

生産やサプライチェーンにおける食品ロスの削減を推進します。

● 資材ロス削減

生産から流通のプロセスで発生する資材ロスを削減します。

● 環境に配慮した食品生産

電気エネルギー及び水資源の利用効率向上により、脱炭素社会の実現に向けて取り組みます。



▲ごまの花

社会への取り組み

● 国内外の子ども支援

途上国への食料支援活動を行い、貧困や飢餓の撲滅に取り組みます。未来を担う子どもたちへの食育活動を推進し、心と体の成長支援に貢献します。

● 健康価値の追求

健康に配慮した製品の提供を通して、安全、安心な食の健康文化を広めていきます。

● 産地との共生

環境負荷を低減した製品の提供を通じて、ごまの産地の農業及び生産者の生活の持続可能な発展に貢献します。

● 食の安全と安心

食品の安全と品質に関する予防及び監視により、安全・安心な製品を提供することで、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努めます。

経済への取り組み

● ごまの新たな価値の創造

ごまの可能性を求めて研究を進め、社会的意義のある新たな価値の創造に取り組みます。

● 働き方と多様性

働きがいの向上や生活の充実感を感じられる職場環境づくりに取り組みます。多様な人材がやりがいを持って働き、活躍できる社会の実現に向けて取り組みます。



2025年度 活動実績

ACTIVITY

真誠グループSDGs宣言の制定を受け、2023年より全社でSDGs活動を開始しました。生産本部（2部門）、業務本部（8部門）・営業本部（7部門）・経営管理本部（4部門）・全社対象の活動、合計22の活動を実践し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを一步一步着実に進めています。全部門の活動報告は公式WEBサイト「サステナビリティ」に掲載しております。



▼公式WEBサイト サステナビリティ



紙資源の削減

従来版のレポートでは1部につきA3版用紙3枚を使用していましたが、本レポートではWEBサイトと連動することで1枚に削減しています。

産業廃棄物の削減

産業廃棄物の排出量原単位

関ヶ原工場

2025年実績 **0.0109** ▶ 2029年目標 **0.0113**
2019年比で28%削減
2019年比で26%以上削減

名古屋工場

2025年実績 **0.0108** ▶ 2029年目標 **0.0102**
2019年比で22%削減
2019年比で26%以上削減

(原単位は「産業廃棄物排出量÷生産数量」で算出)

新素材を活用した製品の販売促進

大豆たん白など新素材製品の出荷量

2025年実績 2029年目標

2,240 kg ▶ **28,160 kg**

有給休暇の取得推奨

有給休暇取得率

2025年実績 **82.4%** ▶ 2029年目標 **75.0%**

(1/1～12/31 使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ)

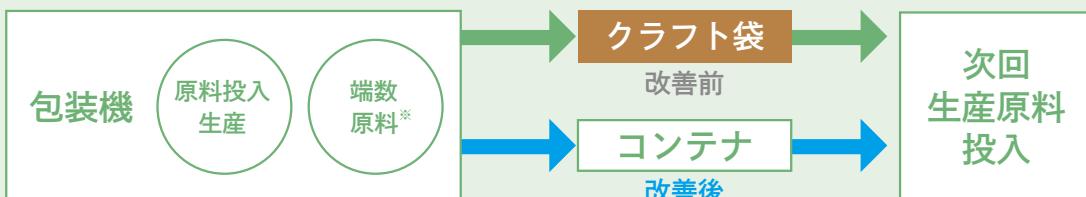


名古屋工場の廃棄物削減活動

作業工程を見直しクラフト袋の使用量を削減

包装機の作業工程を一部見直し、年間でクラフト袋の使用量を300枚削減しました。
小さなことからコツコツと紙資源の削減に努めています。

300枚削減!



*端数原料とは生産後に機械に残る少量の原料です。食品ロスを無くすためムダなく使用しています。





名古屋グランパスと食育パートナー契約を締結し、地域の食育活動を支援

名古屋グランパス様との食育パートナー契約のもと、地域の皆さんを対象とした食育活動を支援しています。学校やスポーツ少年団、公共施設などで行われる食育講演では、グランパスの管理栄養士が「元気な体をつくる食事と生活リズム」などについてお話しし、健康づくりに役立つ情報をわかりやすく伝えています。今後も名古屋グランパス様と協力し、子どもから大人まで地域の皆さんに食の大切さと楽しさを伝えながら、地域社会への貢献に取り組んでまいります。



ごまの皮を配合したアップサイクル文具で子どもたちの教育を支援

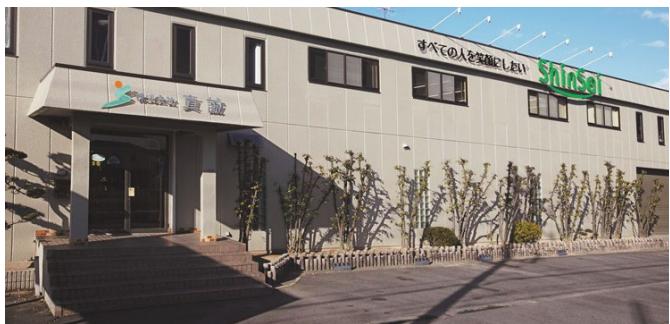
ごま原料の調達に係る商社にアフリカ地域のヒアリングを行った際、「現地では文具が不足している国が多い」という声を受けました。そこで、食品残渣（ざんさ）からバイオマスプラスチックを開発する企業と連携し、皮むきごまの製造工程で発生する表皮を配合したアップサイクルの定規を製作。完成後にモザンビークの小学校を訪問し、現地で開催されたセレモニーを通じて全校児童860名に定規を贈呈しました。食品残渣のアップサイクルによって、ごまの表皮が新たな価値を持つ定規として生まれ変わり、文具という形で子どもたちへの教育支援につながりました。今後も現地からの要望を取り入れながら、継続的な支援の在り方を検討してまいります。

レポートタイトルの名称変更について

2022年～2024年版レポートの表紙タイトルを『真誠グループ SDGs レポート』としていましたが、2025年版から『**真誠グループ Sustainability Report**』に名称を変更しています。サステナビリティは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む広い概念として位置付けられています。また、SDGsが2030年までの目標であるのに対し、サステナビリティは、その先の未来まで見据えた取り組みを意味することから名称を改めました。

会社概要

名 称	株式会社 真誠
本社所在地	〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 TEL : 0568-23-3311 FAX : 0568-22-4245
設 立	1961年2月15日
代 表 者	富田 博之
業 務 内 容	ごま製品及び即席食品の製造販売
関 連 会 社	株式会社 真誠インダストリアル・パーク 株式会社 真誠プランニング



編集後記

真誠グループ Sustainability Report 2025をご覧いただきありがとうございます。本レポートの表紙デザインは当社の研究・開発からお客様に至るまでのバリューチェーン（企業価値のつながり）をイメージしており、当社の事業活動が多くの方々に支えられ存在していることを表現しています。これからも、コーポレートメッセージ“すべての人を笑顔にしたい”の理念のもと、より良い未来の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

CSR・SDGs担当 岸川 敏晴

WEBアンケート

より良いサステナビリティレポートを作成していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。



〒481-8526
愛知県北名古屋市片場新町29
TEL : 0568-23-3311
FAX : 0568-22-4245
<https://www.shinsei-ip.ne.jp>

